

# カウンセリングルームだより

Vol. 33 (2011年6月発行)



## 正しく知ろう！ 高齢妊娠と高齢出産

最近のテレビドラマの影響で、出産年齢に関連した心配や不安を抱く方が多くみられます。医学的な事実をよく知ったうえで、自分はどうするか、何歳までチャレンジするか等、考えるためのポイントをお伝えします。(高齢出産とは女性が35歳以上で産むこと)

女性の年齢が高くなると



### (1) 卵巣機能が低下する

- ・良い卵子が排卵されるチャンスが減ってくるため妊娠率が落ちる
- ・40~45歳頃に卵子が取れなくなってくる人が多い
- 閉経は平均50歳前後、45~55歳頃に更年期を迎える人が多い
- ・卵巣機能の低下は急な変化ではなく徐々に起こり、個人差がある

### (2) 排卵されても、卵子の染色体本数異常率が増加する

- ・女性の年齢が高くなると、染色体の本数異常を持つ卵子が増えてくる
- 精子の染色体の本数異常もあるが、男性の年齢とは関係しない
- ・染色体本数異常があっても受精するが、多くは妊娠しないか、しても流産となることが多い
- ・妊娠初期の流産率は15~20%、その多くは染色体本数異常による
- 夫婦の染色体が正常でも、誰にでも起こる可能性があり防ぐ手段ない
- ・染色体本数異常がある状態で、出生まで至る代表例はダウン症候群
- 生れる頻度は、30歳で1000人に1人(0.1%)、35歳で300人に1人(0.3%)、40歳で100人に1人(1%)程度

ダウン症について

- ・特徴的な顔貌、知的障害(軽度~中等度位)が認められる
- ・先天性の心臓疾患や身体的な症状もみられることが多い

## 羊水検査(出生前診断)

- ・胎児の染色体異常の有無などを調べることができる
- ・妊娠14週以降に実施、費用は10~15万程度
- ・結果によっては中絶を考慮することが可能
- ・羊水検査による流産のリスクは約0.3%



羊水検査を受けるか、受けないか様々な考え方があります。その方の生活、障害について抱いているイメージ、知識、経験、ご夫婦や家族関係、医療者や教育、福祉のあり方、それに携わっている人たちとの関係や母親となる女性の仕事や環境等、色々なことが影響します。

女性の年齢が高くなったら心得ておきたいこと

- ・妊娠率は下がる、流産率は上がるが、防ぐことは出来ない
- 可能性とどう向き合い、頑張れるか
- ・母体の合併症、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病や前置胎盤等の頻度は上がるが、激増するほどではないので健診をきちんと受ける
- ・子どもがダウン症候群などの染色体異常をもって生まれてくる可能性が上がるが、確率は40歳で1%程度(99%はそうでない)
- ・不妊治療の費用だけでなく、育児や教育にかかる費用の試算等、経済的な見通しや、家族の人生設計を考えてみる

★ 心配や不安を一人で抱え込まないで、カウンセリングをお気軽にご利用してください。お待ちしております。

### 6月・7月のカウンセリング予定日

6月4日(不妊学級)、11日、18日、25日

7月2日(不妊学級)、9日、16日、23日、30日

